

## V 事業所規模別 防災備蓄の目安(2025年版)(木防プロジェクト)

### ☑ 基本の考え方(共通)

備蓄対象：全従業員+来客・臨時スタッフも想定  
備蓄日数：最低3日分(推奨は5日)  
備蓄場所：社内複数箇所に分散(倉庫・事務所など)  
定期点検：年1回、賞味期限・機能の確認と入替

#### ■ 小規模事業所(20名以下)

- ・飲料水(500ml)：  
1人あたり6L(500ml×12本×人数)
- ・非常食(レトルト・アルファ米など)：  
1人あたり9食分(3食×3日分)
- ・簡易トイレ：1人あたり10回分以上(×人数)
- ・携帯ラジオ・乾電池：1台(複数あればなお可)
- ・懐中電灯：人数分または1部署に1台以上
- ・救急セット：1~2セット
- ・毛布・保温シート：必要人数分(冬季対応)
- ・携帯充電器(モバイルバッテリー)：  
最低2~3個(事務所用)

#### ■ 中規模事業所(20~50名)

- ・飲料水：約120~300L(1人6L~15L)
- ・非常食：約180~450食分
- ・簡易トイレ：200~500回分
- ・衛生用品(マスク・手指消毒等)：  
人数分×3日以上
- ・携帯ラジオ・ソーラーライト：各拠点に1台以上
- ・救急セット：2~3セット
- ・ヘルメット・防災頭巾：作業員分+来客用予備
- ・保温グッズ・簡易毛布：  
作業着のまま寝泊まりできるセット
- ・非常用電源(蓄電池またはEV給電設備)：  
1台以上導入推奨

## 事業所 防災備蓄チェックリスト(2025年版)

### ■ 防災備蓄チェックリスト(中小企業：従業員20名モデル)

項目	目安数量(3日分)	備蓄済	備蓄場所	更新日
飲料水(500ml)	240本(12本×20人)			
非常食(アルファ米など)	180食(9食×20人)			
簡易トイレ	200回分以上			
マスク・消毒液	各20人分×3日			
懐中電灯	5本以上			
携帯ラジオ	2台以上			
救急セット	2~3セット			
毛布・保温シート	20枚以上			
モバイルバッテリー	3台以上			
泡タイプ消火器	必要箇所に1台ずつ			
防塵マスク	必要人数分			
ブルーシート・資材固定具	必要箇所分			
業務用無線or代替通信手段	必要台数			

※備蓄は最低3日分、可能であれば5日分を推奨します。 ※賞味期限・使用期限切れに注意し、更新日を記録しましょう。

## 注目の最新防災技術と知識

### 1. 地震感知遮断装置：揺れを感じた瞬間に機械が自動停止

- 概要  
震度5弱程度の揺れを検知した瞬間に、工場の木材加工機械や搬送ライン、昇降機などを自動で緊急停止する装置。電気回路の遮断だけでなく、エアコンプレッサーやリフトなどの転倒・暴走リスクを防ぐ。

### 2. 安否確認システム：企業・組合員の命をつなぐ“情報の道”

- 概要  
スマートフォンやPCからボタン1つで全社員・関係者の安否を報告・集計できるシステム。グループ単位での安否確認、避難先の共有、緊急連絡体制の構築にも対応。
- 推奨ツール例  
SECOM安否確認サービス Googleフォーム+LINE活用型の無料版 LINE WORKSの災害テンプレート活用

### 3. ドローンによる被災調査：人が行けない場所を“空から確認”

- 概要  
災害直後、屋根・大型倉庫の上・積み上げ資材などの安全確認ができないエリアを、ドローンで上空から撮影・記録する技術。保険対応の証拠記録にも有効。
- 地形特性に有効  
広大な敷地や資材ヤードの損傷確認 ・冠水地域や泥流区域の立ち入りリスク回避  
操縦講習を受けた社員が1人いれば導入可能

### 4. ポータブル電源・EV活用：非常時の“エネルギー確保”

- 概要  
ポータブルバッテリーやEVを、災害時の予備電源として活用。  
倉庫や事務所での停電時、照明・PC・連絡機器の稼働を数時間~数日分カバー可能。
- 木材業界での活用例  
防災無線や業務用無線との連動(簡易アンテナ接続)  
フォークリフト電源・搬送機器の緊急給電  
EV車からの給電(V2H)で事務所業務を継続

### 5. 知っておきたい最新防災知識

木材火災時の初期対応として、一般的な消火器では消火困難なため、泡タイプ消火器の配備が有効。